

表
87

山陰山陽聯絡東方線鐵道
龍野ヲ起點トスルノ理由
理由

301125-000-2

法-87

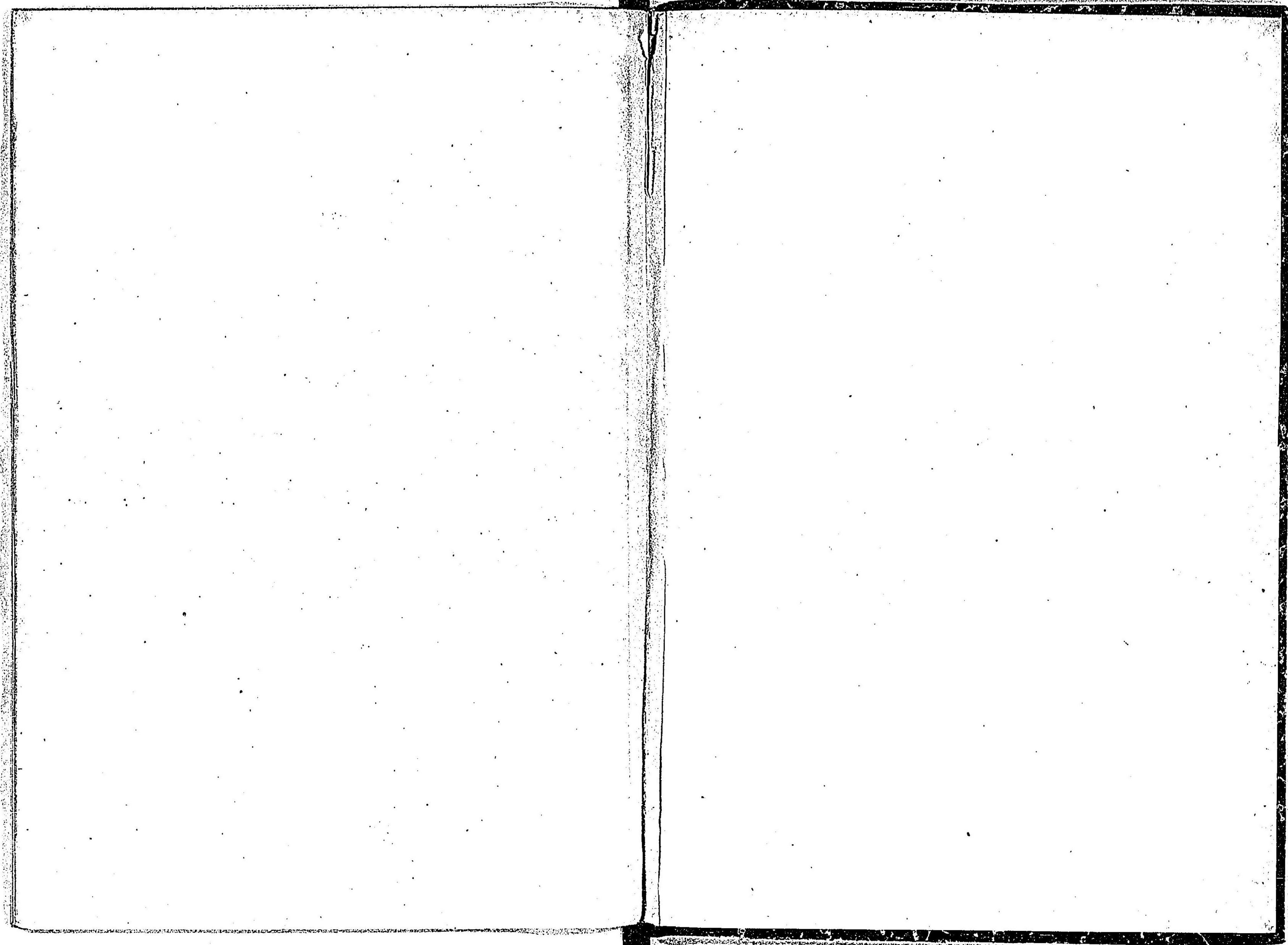
山陰山陽聯絡東方線鐵道龍野驛ヲ起點トスルノ理由

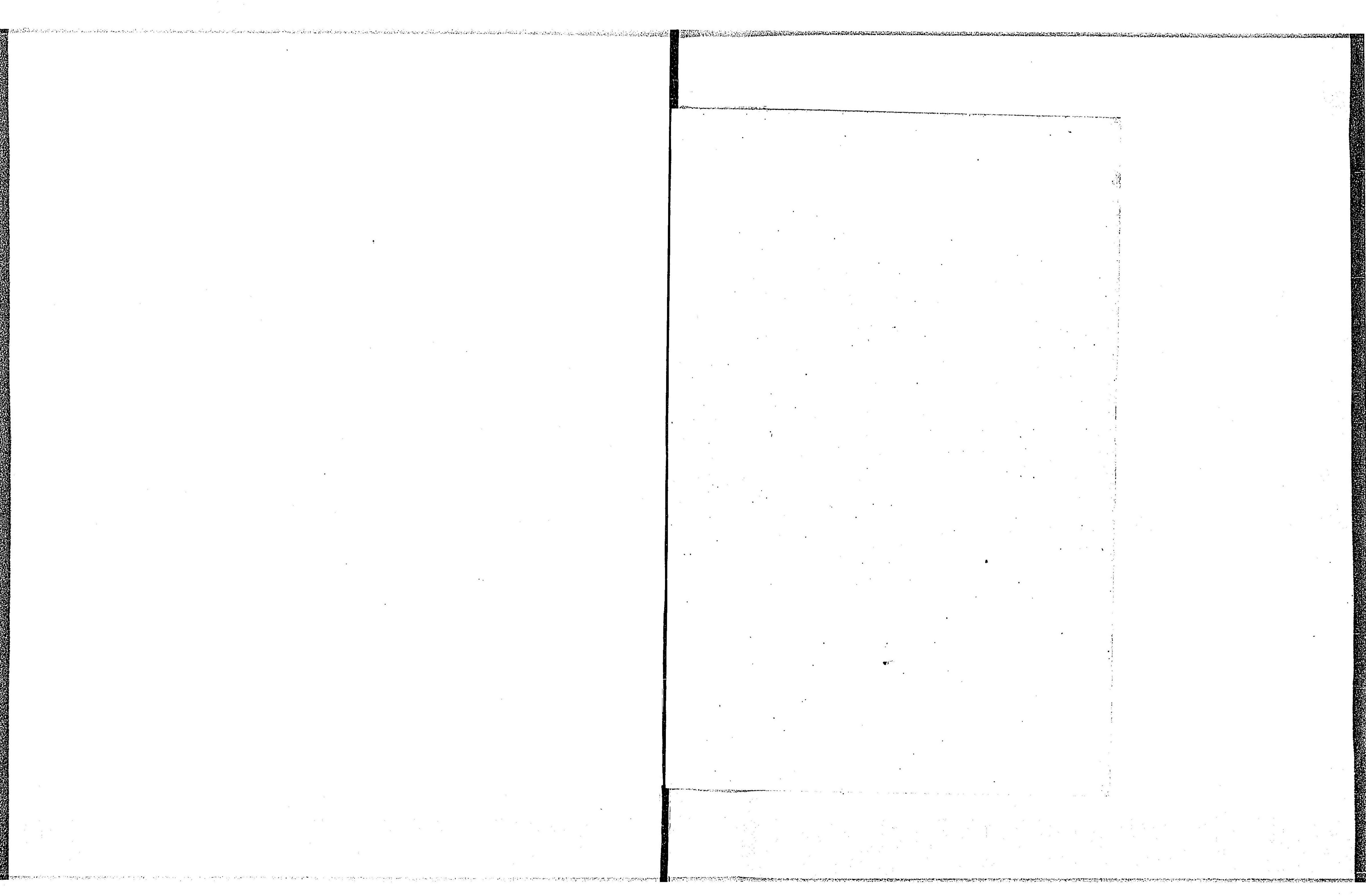
横山省三ノ編

M26.7

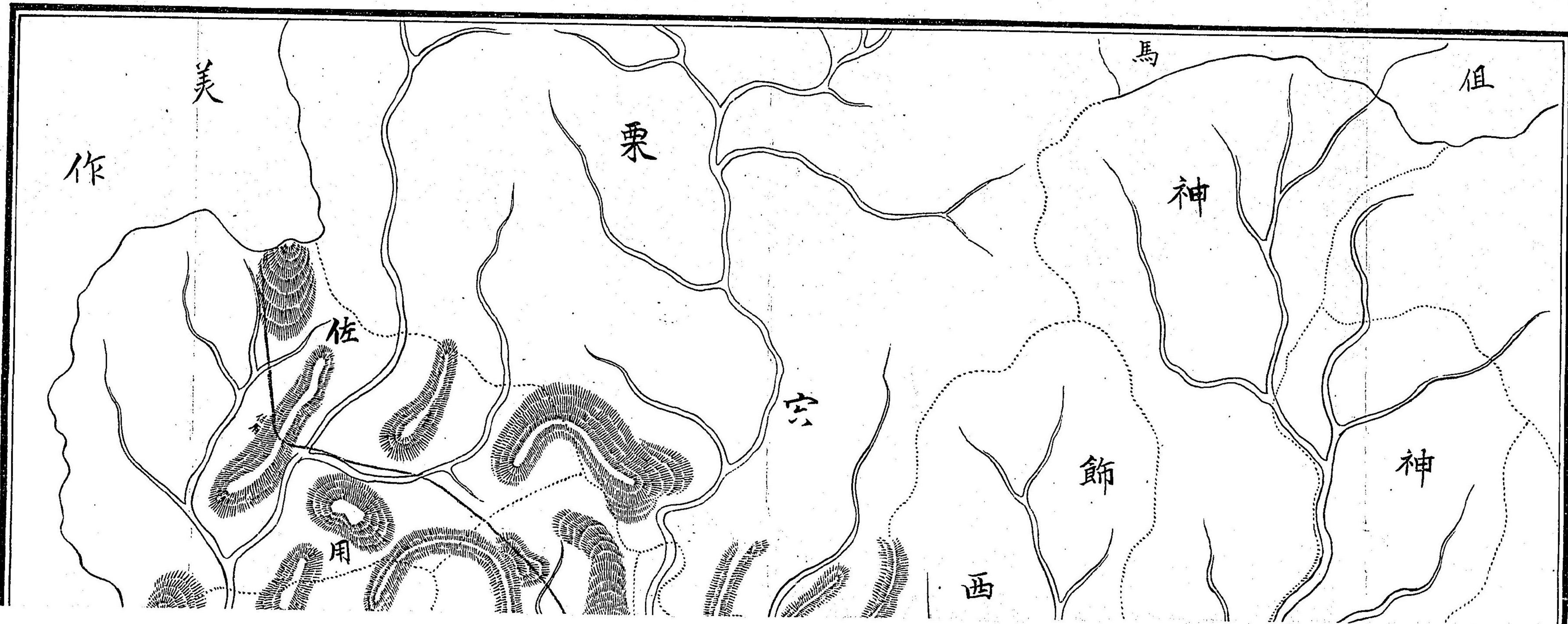
CDF-0014







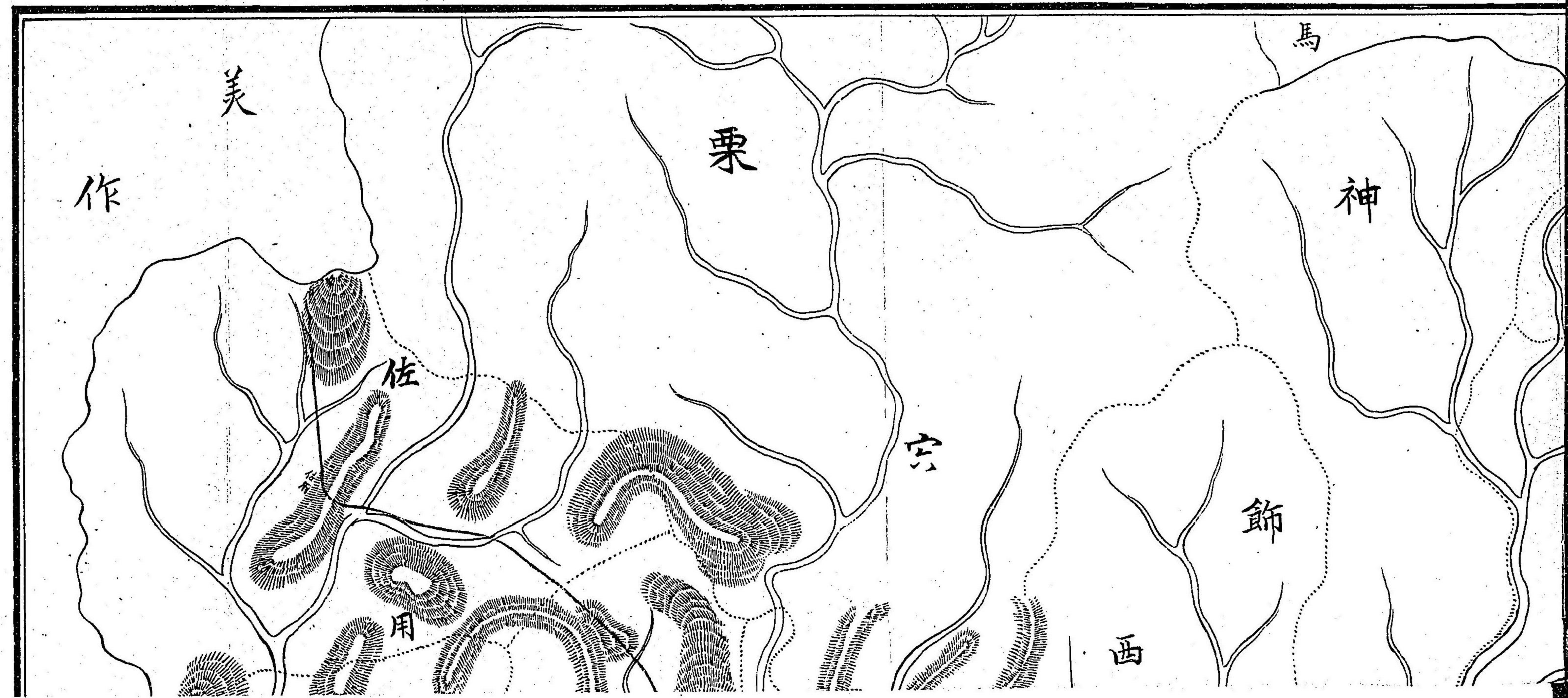
山陰山陽聯絡東方鐵道起點附近路畧圖



龍野驛ヲ起點トスルノ利益

- 一 姫路ヲ起點トスルヨリ哩數ノ減スルヲ六哩餘
 - 二 姫路ヲ起點トセバ揖保、手野、管生、林田ノ四大川ニ架橋ヲ西
 - 三 姫路ヲ起點トセバ、(トシ子ル) 及巨大ノ土工ヲ要ス
 - 四 姫路ヲ起點トセバ洪水ノ害アリ
- 右ノ諸點ニ依ラバ姫路起點ハ巨大ナル費額ヲ増加シ又此

山陰山陽聯絡東方起點附近傍畧圖



ルノ利益

敷ノ減スル一六哩餘

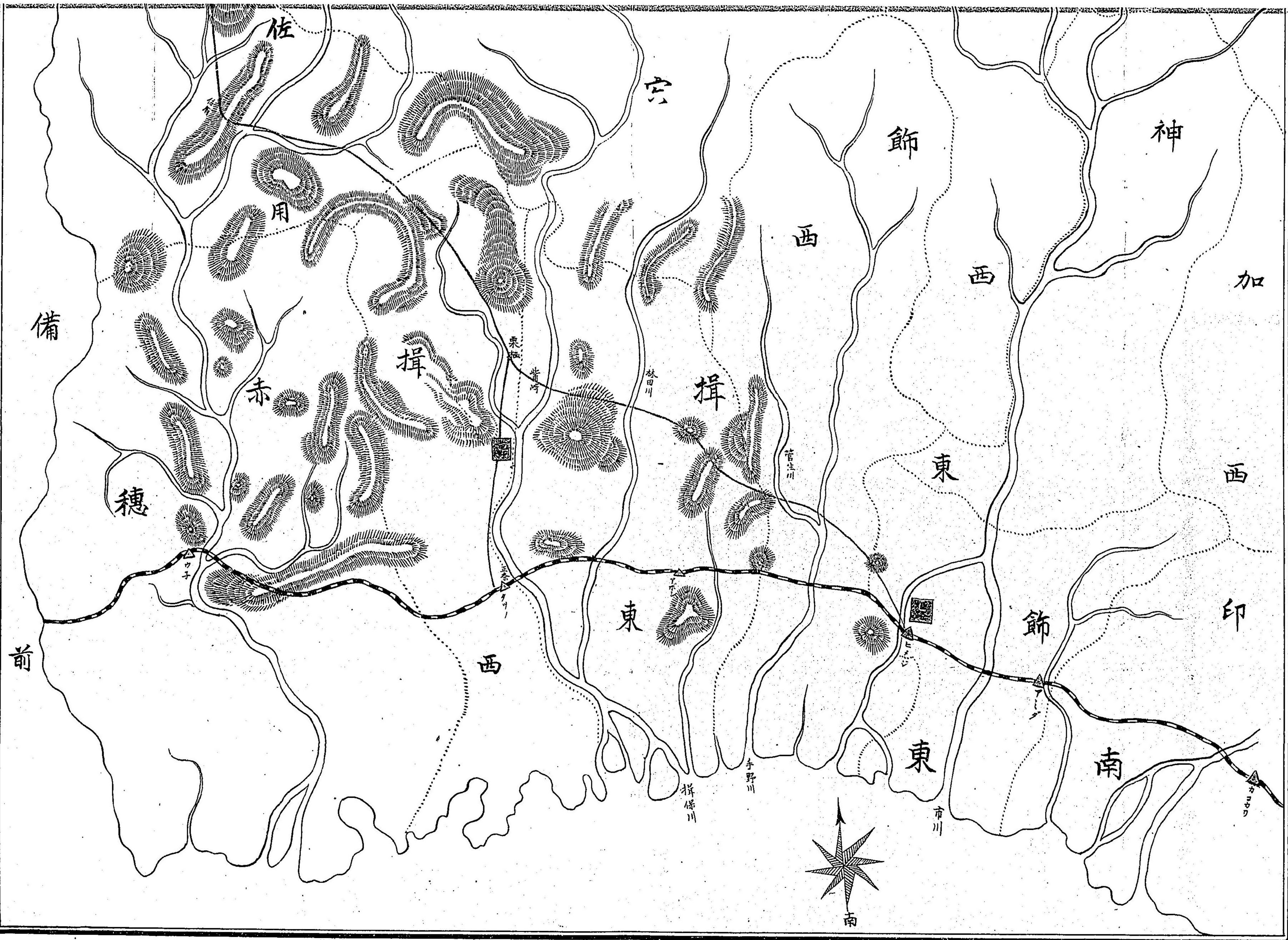
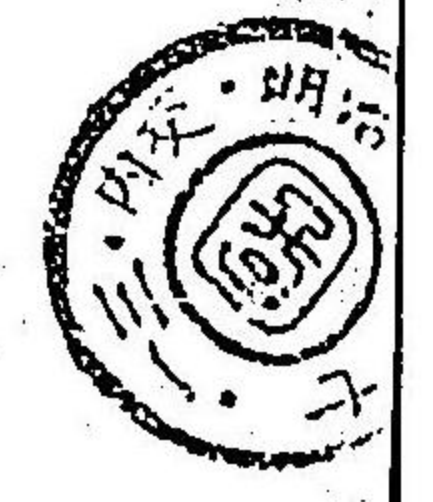
野ノ管生林田ノ四大川ニ架橋ヲ要ス

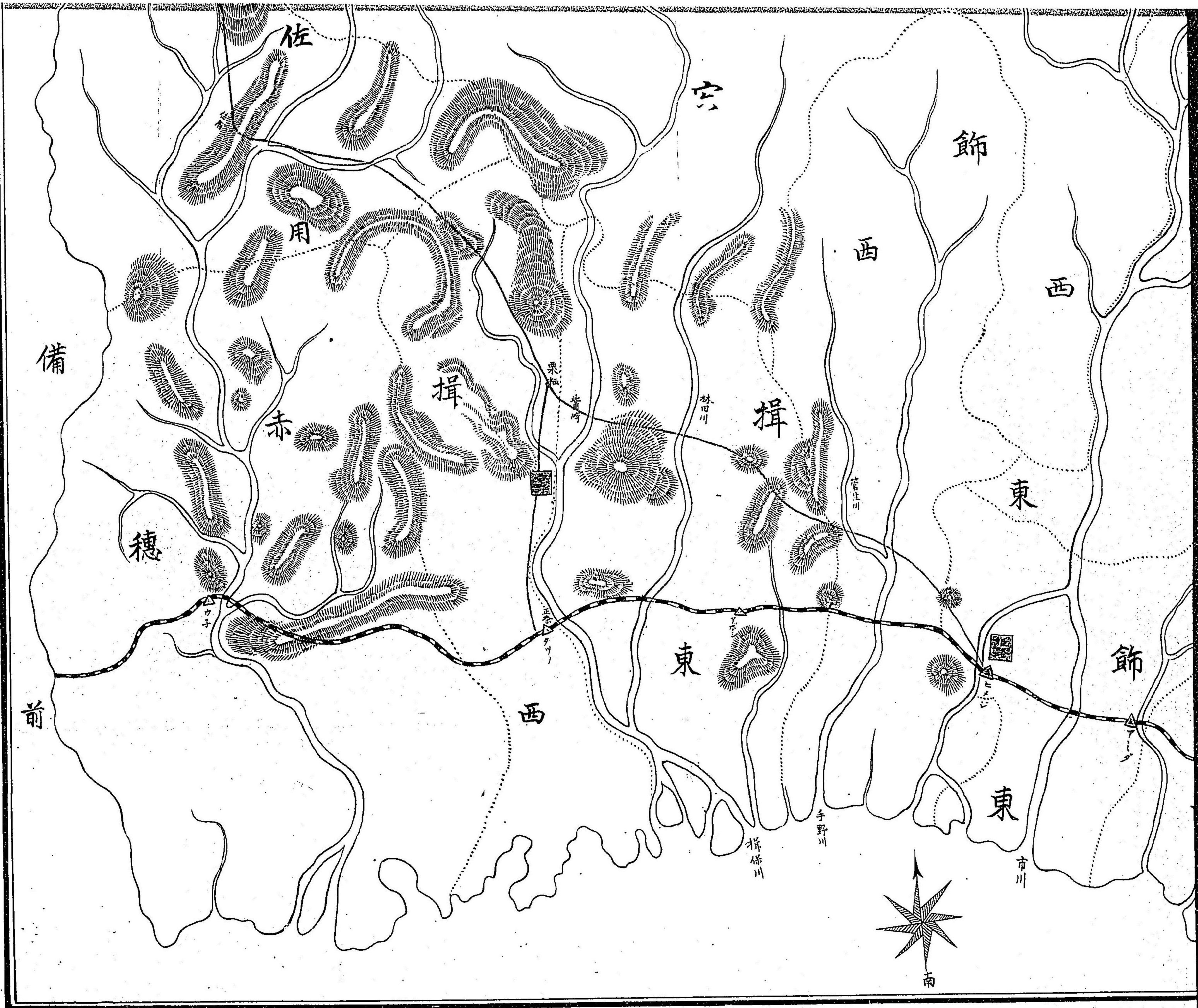
子ルノ及巨大ノ土ヲ要ス

コアリ

然ハ巨大ナル費額ヲ増加シ又洪水汎濫ノ危険アリ

陰陽鐵道聯珠線
山陽鐵道線
國界
郡界
川海





山陰山陽聯絡東方線鐵道龍野驛ヲ起點トスルノ理由

明治二十五年法律第四號ニヨリ山陰山陽鐵道聯絡豫定線
 路ニ東部近傍ヨリ中央岡山ヨリ米子西方倉敷又ハ玉島ノ
 三線ヲ取テ至ラズト雖ヤモ荷モ國家永遠ノ大計
 二線ヲ取テ至ラズト雖ヤモ荷モ國家永遠ノ大計
 他ニ僅カニ所屬地方ノ人士ガ枉ゲテ其利
 便ヲ新設トシテ他ニ應援ヲ與フルモノアルヲ見ズ是
 ノツノ便否利害ハ之ヲ比較商量スルヲ要セス一目瞭然タ
 ルモノアレバナリ吾人ハ信ズ陰陽鐵道聯絡ニ對スル東方線
 ハ唯一無二ノ候補ナルコトナリ而シテ東方線中亦々自カ
 ラ小異同ヲキユト能ハズ

經濟上ノ關係

地方經濟ノ利害

請フ先ツ治水上ノ關係ヨリ陳述セシ

治水ハ國家爲政ノ要事ニシテ管ニ地方人民ノ休戚ニ關スル
ノミナラズ其國家經濟上ニ於ケルノ利害殆シド測ルヘカラ
サル者アラントス抑モ我國ガ歳々年々土木ノ爲メニ費ス處
ノ金額ハ尠少ナリトセズ第十一統計年鑑ノ示ス處ニヨレバ

土木費

廿二年度	廿一年度	二十年度	十九年度	十八年度
一三、七五〇、一二四	九、九〇八、七八四	九、七八五、七七七	一〇、二〇八、二一四	一〇、一八二、一三六
十七年度	十六年度	十五年度	十四年度	十三年度
九、一〇八、〇九〇	九、二五〇、〇六九	九、四五五、九四六	八、〇三〇、二七七	七、五〇八、八七七

右之内河川ニ屬スル土木費ハ左ノ如シ

廿二年度	廿一年度	二十年度	十九年度
六、二七七、七五九	三、五二二、七七七	三、五一六、二八三	三、五二三、七六九
十八年度	十七年度	十六年度	十五年度
四、二四〇、九一六	三、二二〇、〇〇三	三、二二六、三四九	三、六六九、九三六
十四年度	十三年度		
二、五〇〇、三三三	三、〇八〇、四〇五		

而シテ我が兵庫縣下ニ係ル廿二年度ノ土木費ハ左ノ如シ
(第十一統計年鑑ニヨリ)

河川	道路	堤防
三六四、二二八	一五六、五七五	七〇、二三七

我ハ兵庫縣下ニ於ケル治水上ノ歴史ハ之レヲ詳説スルノ要
ナシ思フニ縣下ノ水害ハ夙ニ世人ノ知ル處ニシテ特ニ昨廿

五年度ニ於テハ八十二万四千九百餘圓ノ國庫補助金ヲ下附
セラレ八十四万千七百七十餘圓ノ地方稅サヘ支出シタルモ
關係町村ハ尙ホ重賦ニ苦シミ飢餓旦夕ニ逼ルノ慘狀ヲ演出
セシニ非ズヤ而シテ縣下人民ノ瘡痍ハ猶ホ未ダ愈ヘズ到處
ノ堤防橋梁ハ或ハ修築中ニ屬シ或ハ工事總力ニ其緒ニ就キ
タルノミナル等一見昨秋慘憺ノ光景ヲ追想セシム故ニ縣下
人民ノ疾苦ヲ除カシト欲セバ治水上ノ便利ヲ謀ルニ若クモ
ノナシ而シテ鐵道工事ガ治水ニ及ホヌノ關係如何吾人ハ之
レヲ言フニ忍ヒザルモノアルナリ第四帝國議會ニ於テ政府
委員ガ某議員ノ問ニ答ヘシ處ニヨレバ鐵道工事ハ學理上治
水ニ惡影響ヲ及ホサズ鐵橋架設鐵道敷設ハ共ニ治水ニ何等

ノ妨害ヲ與ヘザル者ノ如シ蓋シ多少學理ノ力ニヨリテ妨害
ヲ避クルヲ得ヘシ詳シク云ハ、幾分カ妨害ノ度合ヲ輕減ス
ル事ヲ得ヘシ然レ共河中幾多ノ橋柱ヲ樹テ乍ラ之レヲ架設
セサルニ比シ毫モ異ナルコトナシト云フヲ得ヘキカ政府委
員ノ所謂學理上云々ハ其河水高漲ノ度ヲ測定シテ之レガ流
瀉ニ妨ケザルヲ云ナラン河身ノ形勢ヲ觀察シ激流ノ注ク處
ヲ考ヘ之ヲ豫防スルヲ云フナラン然レトモ天災ハ人事ト相
關セス一度霖雨ニ際會スレハ高漲ノ水ハ乍ラニシテ巨材乍
チニシテ大木ヲ流シ蜿蜒タル堤防ヲ衝破スルニ勿論橋柱ニ
横ハリテハ水勢ヲ阻碍シ激流怒濤ヲシテ遂ニ堤防ヲ缺潰セ
シムルニ至ルハ吾人ノ比々其例ヲ實見セル處ナリ之レヲ如

何ソ學理上惡影響ヲ及ホサ、ラシムルヲ得ヘシト云フヲ得
ンヤ吾人ハ今之レヲ事實ニ論証セン我カ龍野ニ接近セル母
保川カ最近十年間ニ於テ與ヘタル水害ハ明治十五年明治廿
三年明治廿五年ノ三回トス而シテ此三回中水量ヲ以テスレ
ハ十五年ヲ以テ最トスルニ拘ハラス被害ハ廿五年ノ慘ナル
ニ及ハス是他ナシ廿二年山陽鐵道敷設ノ爲メ鐵橋ヲ架設シ
タル結果トシテ平常ニ於テハ砂石河ヲ填メ洪水ノ時ニ在テ
ハ巨材大木水勢ヲ障フルニヨル人或ハ云ハン砂石ノ河ヲ填
ムルハ鐵橋架設ニヨルニアラス水源地ニ於テ山林ヲ濫伐セ
シ事等ノ結果ナルノミト山林濫伐ノ治水ニ關係アルハ吾人
モ之ヲ認ムルモノナリ然レ共鐵橋ノ上流ト下流トガ著シク

廣狹深淺ヲ異ニセシハ如何又架橋以后非常ノ速度ヲ以テ河
底ヲ淺クシ流域ヲ狹クセシハ如何請フ一度實地ノ狀況ヲ視
察セヨ思ヒ半ニ過ルモノアルヘキナリ夫レ然リ鐵橋ノ治水
ニ惡影響ヲ嫁セシハ事實掩フヘカラサルモノナリ証ユ可カ
ラサルモノアリ而シテ更ラニ一事ノ論証ヲ要スルモノハ堤
防缺潰ノ實況ナリ試ミニ我カ母保川ヲ始メ同一鐵道ノ連鎖
ニ係ル加古川千草川ノ諸川ノ如キモ皆鐵橋ニ近接セル上流
ニ於テ概チ西岸堤防ヲ缺潰シ水勢一轉シテ鐵橋ノ下流ニ注
キ更ラニ東岸ノ堤防ヲ衝破シ交互相錯綜シテ海ニ入ル想フ
ニ其ノ先ツ西岸ヲ缺潰スルモノハ河身ノ稍西ニ向フノ傾キ
アルニヨルヘシト雖トモ鐵橋近接ノ上流ニ於テ缺潰ヲナス

ノ軌ハ一ナリ知ルヘシ橋柱ノ障礙決シテ誣フヘカラサル事
ヲ吾人ハ又特ニ記憶ス昨廿五年ノ水害ニ際シ鐵橋ノ上流ト
下流トノ間ニ於テ水量ニ五尺ノ差ヲ生セシヲ若夫ノ逶迤長
蛇ノ形ヲナシタル鐵道カ堤防缺潰河水横溢ノ濁下ヲ障ヘ茫
々タル湖水ヲ描出シ家屋ヲ沈メ田畑ヲ沒スル慘狀ハ前者ニ
比シ更ラニ一層ノ甚シキモノアリ雨既ニ收リ河水亦其量ヲ
減シタルニ拘ラス家屋ト田畑トハ朝又タ夕依然トシテ湖水
ノ中ニアリ所謂沈鼈蛙ヲ生セントスルニ至リ作物ハ腐敗シ
テ汚泥ニ埋メラル、等農家一年ノ生計ヲ舉ケテ之レヲ雨師
一日ノ犠牲ニ供スルノミナラス住居スヘキノ家屋ヲ失ヒ多
年辛苦ノ結果タル財産ヲ蕩滌シ甚シキハ生命ヲスラ全フス

ルコトヲ得テ父子兄弟相見テ相拯フコト能ハス新婦寡トナ
リ稚兒孤トナル等他人尙ホ之レヲ見聞スルニ忍ヒサルカ如
キハ吾人カ每次水害後ニ實歷セシ處ノ事實ナリトス此ノ如
キノ慘禍一ニ鐵道ノ長堤ヲ形シテ鐵橋ノ堅障ヲナスニヨル
ヲ以テ所在人民ノ鐵橋ヲ見ルコト始ント仇敵音ヲラサルト
ノ感アリ然ルニモ拘ラス朝夕相見テ相逆ハサルハ鐵道車業
ノ國家經濟國家軍事ニ大關係ヲ有スルヲ以テナリ實ニ然リ
然ラハ則チ新タニ鐵道ヲ敷設スルニ當ツテハ假令地理上多
少ノ遠近工事上多少ノ難易アリトスルモ此大危難ヲ避クル
ノ計ヲ爲スヘキハ國家ヲ思ヒ人民ヲ愛スル者ノ喜ンテナス
ヘキ所ナリトス今我姫路ヲ起點トスルノ説ニ從ヘハ其龍野

ヲ起點トスル者ハ一致スルノ點卽チ西菅崎村ニ達スル迄ノ
間ニ於テ實ニ夢前菅生林田揖保ノ四大川ヲ横斷セサルヲ得
ス而シテ其既山陽鐵道トノ距離ハ近キハ一哩以内遠キモ三
哩ニ過キサルヲ以テ其狀恰モ併行線ヲ畫シ若シクハ複道ヲ
設ケシ者ノ如クナルヘシ一條ノ鐵路四個ノ鐵橋ニ昔シミ年
々歳々慘禍ヲ蒙ルノ地ニ向ヒ何ヲ苦ンテ複道ヲ設ケ併行線
ヲ畫セントスルヤ生命ヲ毀損シ財産ヲ蕩滌スルモノ器械ヲ
据附ケ疾苦ニ重ヌルニ疾苦ヲ以テシ瘡痍ヲ裏ンテ瘡痍ヲ受
ク所在人民ヲ奈何セン國ヨリ鐵道ハ必要ノ事業ナリ其南北
海ヲ一貫スルカ如キハ特ニ必要ナルヲ以テ國家必要ノ爲ニ
ハ犠牲タルヲ辭スヘカラサル事モアラン唯々避ケ得ヘキノ

害ヲ避ケス免カレ得ヘキノ難ヲ免カレサルハ愚之ヨリ甚シ
キ者ナシ我龍野ヲ起點トスル說ハ然ラス龍野驛ヨリ西菅崎
村ニ至ル間徒歩シテ涉ルヘク一躍シテ踰ユヘキノ小流二條
アルニ過キサルヲ以テ滔々タル河流ヲ阻シ沿岸堤防ヲ缺潰
スルノ虞ナキハ吾人ノ斷言スルヲ憚ラサル所ナリ而シテ線
路ノ迂回ハ纒カニ三哩ニ過キストス東方三哩ノ迂路ハ取モ
直サス西方三哩ノ捷路ナルヲ以テ此點ニ於テハ乘餘十哩ノ
利益ナリ果シテ然ラハ他ノ工費等(工費ノ事ハ後段ニ詳論ス)ノ
利益ハ暫ク之レヲ措クモ危害ヲ轉シテ安全トナス其利益幾
何ソヤ斯ニ視易キノ利害ヲ甄別スル事能ハス誤ツテ姫路ヲ
起點トスル事アランカ揖東揖西節西ノ三郡ハ二條ノ鐵道八

個ノ鐵橋ニ圍マレ一万二千二百町余ノ田畑二万六千余ノ家
 屋十三万七千余ノ人口ハ殆ント擧ケテ慘禍ノ淵ニ沈没セサ
 ルヲ得ス而カモ新タニ架スルノ鐵橋ニ障碍セラレテ其近接
 堤防ヲ缺潰シ一旦氾濫ヲ逞フシタル河水ハ山阜鐵道等ニ障
 ヘラレ再ヒ河中ニ注キ合シテ下流ニ至ルハ地形ニ徴シテ疑
 ナ容レサル處ナリトス以上ハ單ニ一地方人民ノ休戚利害ニ
 止ルモノニアラス夢前揖保ノ二川ハ從來歩合ヲ定メ地方稅
 ヨリ支給セシ者ニテ昨年來ハ工費ノ全体ヲ擧ケテ地方稅ヨ
 リ支辨スル事トハナリタリ故ニ鐵道敷設ノ得失ハ直接ハ縣
 下全体ニ於ケル經濟上ノ利害トナリ又國庫補助金ノ下附ヲ
 要スルニヨリ間接ニ國家全体ニ於ケル經濟上ノ利害トナル

般鑑遠カラス實ニ昨年度ニアリ

明治二十五年七月水害表

揖東郡		揖西郡		赤穂郡	
種別	ヶ所	種別	ヶ所	種別	ヶ所
堤防	六六〇	堤防	六二五	堤防	二四九
國道	九	國道	二〇	國道	三三
縣道	五二、二、二〇二	縣道	一一	縣道	九六、三、九八三
橋梁	一	橋梁	六	橋梁	一
全損	四	全損	二	全損	三
延長	八八三	延長	三、四、五	延長	一七、九、六
價格損失	一、九、七、七	價格損失	二、九、七、二	價格損失	三、一、九、〇
種別	ヶ所	種別	ヶ所	種別	ヶ所
堤防	六六〇	堤防	六二五	堤防	二四九
國道	九	國道	二〇	國道	三三
縣道	四、一、三、八	縣道	一一	縣道	九六、三、九八三
橋梁	一、六、五、六	橋梁	八	橋梁	一
全損	八三五	全損	二五	全損	九
延長	八八三	延長	三、四、五	延長	一七、九、六
價格損失	一、九、七、七	價格損失	二、九、七、二	價格損失	三、一、九、〇
種別	ヶ所	種別	ヶ所	種別	ヶ所
堤防	六六〇	堤防	六二五	堤防	二四九
國道	九	國道	二〇	國道	三三
縣道	五二、二、二〇二	縣道	一一	縣道	九六、三、九八三
橋梁	一	橋梁	六	橋梁	一
全損	四	全損	二	全損	三
延長	八八三	延長	三、四、五	延長	一七、九、六
價格損失	一、九、七、七	價格損失	二、九、七、二	價格損失	三、一、九、〇

水路	川溜	荒地	耕宅地	浸破全	崩流建	死家畜	人死	人死	港灣	破全	流橋	縣道
路惡	池	地	地	水損上	潰失物	亡畜	負傷	死亡	灣	損上	梁	線
四三五	川	三六八	三六八	五、六〇	一九五	二正	八八	八八	二	二	二	二
一三一〇八	一四五六	一六〇五八	一六〇五八	四四、一六二	五、八一九				四〇五〇	一〇八	三三五	三三五
水路	川溜	荒地	耕宅地	浸破全	崩流建	死家畜	人死	人死	港灣	破全	流橋	縣道
路惡	池	地	地	水損上	潰失物	亡畜	負傷	死亡	灣	損上	梁	線
四一五	溜	三八一	三八一	六、五三	四一八		二八	二八		五	五	五
二六、二四五	七											
一、二四〇	六、八三三	三六六三三	三六六三三	二九、六二五	三、三三九					二、八七三	九二	九二
水路	川溜	荒地	耕宅地	浸破全	崩流建	死家畜	人死	人死	港灣	破全	流橋	縣道
路惡	池	地	地	水損上	潰失物	亡畜	負傷	死亡	灣	損上	梁	線
八〇七	池二四	一〇五九	一〇五九	六、八三	一、五五	一三	一〇八	一〇八	一	三	八	八
六、四九四	二八八								三	一〇七	一一六	一一六
四八七六五	六、四四〇	六、三〇六	六、三〇六	七九、七〇八	五、四二八				四〇	三三二	五、六四六	五、六四六

合計	損井	救儲備	損雜
計	所堰	助金荒	失種
三三、八七		五、一七八	七八、〇〇〇
合計	損井	救儲備	損雜
計	所堰	助金荒	失種
六、七三三		一、五二六	
合計	損井	救儲備	損雜
計	所堰	助金荒	失種
一、四六三、〇七	四、五七三、四八二	二、八三一	三、四、二〇九

備考
 延長ハ間止メ
 價格ハ圓止メ
 反別ハ反止メ

吾人ハ國家ヲシテ此損害ヲ蒙ラシメ我カ揖東揖西飾西三郡ノ人民ヲシテ喘々焉唯不虞ノ天災ヲ危惧セシムルニ忍ホス敢テ明決ヲ仰カントスル所以ナリ幸ヒニ區々龍野町ノ利害ノ爲メ之レヲ云フ者ト誤認スル事勿レ若シ猶ホ之ヲ疑ハハ卷首附スル所ノ地圖ヲ展覽セラルヘシ仮リニ姫路ヲ起點トスルノ説ニ從フモ龍野ト皆崎ノ二驛ハ龍野町ヲ擁スルニ在ラシヤ甲ニ行モ可ナリ(距離僅カニ壹哩余)乙ニ行クモ可ナリ(距離僅カニ三哩余)一郡二個ノ停車場ヲ設置セラレテ而カモ位地稍其宜キニ適セントス(龍野驛ヲ起點トスル時ハ皆崎ニ設置スル停車場ヲ新宮村ニ設置スルヲ可トス)何ヲ不便トシ何ヲ不利トシテ龍野起點説ヲ提出セン要唯々治水上ノ關係危難ノ默視スヘ

カヲサルモノアルノミ

吾人ハ之ヨリ軍事上ノ關係ニ就テ陳述スル處アルヘシ

龍野驛ヲ距ルコト三哩ノ海濱ニ古來著明ノ要港アリ室津是ナリ船舶製造上ノ變遷外國貿易開始等ノ影響ニヨリ復々維新以前ノ盛況ヲ見ルコト能ハスト雖トモ兵庫縣第九勸業年報ニヨリ其出入港船舶ニ係ル統計ヲ舉ク之レヲ繁盛無比ノ神戸港ニ比較スル事左ノ如シ

以テ縣下有數ノ要港タルヲ知ルヘシ然レトモ室津港ノ要ハ
此ニアラスシテ彼ニアリ吾人ハ軍事上ニ於ケル室津ノ關係
ヲ觀察セサル可カラス之ヲ聞ク大坂砲兵工廠ハ曩キニ某砲
兵中佐ヲ中國海ニ派遣シテ普子ク港灣ヲ視察測量セシメタ
ル際到ル處ノ港灣皆軍事的ニ不合格者タリシニ拘ラス我室
津港ノミハ港内水深クシテ軍艦ハ碇船ニ適シ大砲若クハ水
電艇ヲ陸地ニ運搬スルノ便アルユトヲ測定シタリト其測定
ノ結果トシテ聞得シ處ニヨレハ

室津ハ中國海無比ノ良港ニシテ軍艦碇船ニ便ナルノミナ
ラス明神浦ニ於テハ中潮ノ時四間餘ノ深サアリ故ニ大砲
水電艇ヲ陸揚ケスルノ必要アル場合ニ臨メハ長サ八間ノ

機橋ヲ架設スレハ巨大ノ艦船ヲ繫泊スルヲ得ルナリ又近
傍或ル人家ノ裡手ニ於テハ二間有餘ノ機橋ヲ架設スレハ
砲艇共ニ陸揚ケスルヲ得ヘシ但シ道路ハ稍狹隘ナルモ非
常ノ場合ハ道ヲ挾メル人家ノ幾分ヲ破壊シテ通行ニ便ス
ルモ可ナルヘキニヨリ砲艇運搬ニハ毫モ差支アル事ナシ
云々

想フニ右ノ結果ハ當局者ヨリ既ニ參謀本部等へ報告セラレ
タル事ナランカ要スルニ室津ノ位地タル中國海適當ノ處ニ
アリ地形ニ灣入シテ東西共ニ天然倔強ノ波止ヲ形シレリ曾
テ某等家嶋ニ船渠ヲ築造セントシテ其築造ニ適セサルヲ覺
リ來ツテ室津港ヲ巡視シ遂ニ西岸ニ於テ適當ノ築造地ヲ發

見シタリ此一事ヲ以テスルモ室津港ノ軍事上ニ一大必要アル事知ルヘシ論者動モスレハ即チ曰ク姫路ニハ第八旅團アリ一朝事アルノ日ハ直チニ兵士ヲ簡發スルノ必要アリ故ニ姫路ヲ起點トスルヲ可トス而シテ室津港ノ軍事上ニ大關係アル事姫路ニ幾倍捷スルヲ知ラサルカ如シ若シ陰陽鉄道ヲシテ論者ノ言フカ如ク專ラ重キヲ軍事上ニ置カシメハ起點ヲ龍野ニ取リ以テ室津ト聯結シ大砲水電艇ヲ吳或ハ兵庫大坂ヨリ致シ之レヲ陰陽鉄道ニ搭載シ以テ北海ニ輸スル最モ急要ノ事ニアラスヤ抑モ北海ニテ舞鶴港アリ鎮守府ヲ設置スルノ議ハ既ニ確定シタリト雖トモ吳佐世保ノ二鎮守府スラ未タ工事ノ完成ヲ見ルヲ得サル今日ヨリ推定スル時ハ假

令今後ノ帝國議會ニ於テ直チニ工事着手ヲ協賛スルモ其軍器ヲ製造シ若シハ水電艇ヲ製造スルニ至ル迄ハ少ナクトモ五七年ヲ費サザルヲ得ス況ンヤ海軍部内ハ更革ヲ要スル事業頗ル多ク積極的ノ事業就中北海ニ屬スル鎮守府工事ノ如キハ其舞鶴ト室蘭トヲ間ハス暫ク時機ヲ待ツノ意見最モ勢力アルカ如クナルノ事實アルニ於テチヤ然レトモ他邦ハ常ニ我ヲ待タス露國ハ將チニ西伯里鉄道ノ工事ヲ竣ヘントス一朝西伯里鉄道ノ完成ヲ告クルニ及ヘハ彼ノ北洋艦隊ノ運動ハ實ニ驚クヘキ者アラン顧ミテ對岸ノ地ニ在ル我北海ハ如何其長門ノ盡頭ヨリ陸奥ノ北端マターノ軍港アルナシ北海ニシテ變アラハ之レヲ防禦スルノ軍艦ナシ兵士ナシ兵

士アリト雖トモ器械ヲクンハ之レヲ奈何トモスル事能ハス
此ノ火急ノ場合ニ臨ンテハ陸地防禦ノ爲メ姫路備成ニアル
兵士ヲ簡發スルコト固ヨリ可ナリト雖ドモ同時ニ大砲水電
艇ヲ運搬スルノ準備ヲカル可カラズ即チ北海ト南海トノ氣
脈ヲ貫通シ一電ノ下吳兵庫ヨリ水電艇ヲ大坂ヨリ大砲其他
ノ武器ヲ輸送スルノ便利最モ欠クヘカラス大坂砲兵工廠ガ
中國海ノ港灣ヲ測定シタルモ畢竟斯ル萬一ノ時ニ處スルノ
道ヲ求メシニ外ナラス吾人ハ之レヲ贊成スルコト勿論ナル
ヲ以テ他日室津龍野ヲ聯結スルノ目的ヲ以テ先ツ龍野ヲ起
點トナシ陰陽鉄道ヲ敷設シ漸次室津龍野間ノ鉄道敷設ヲ計
畫セント欲スル者ナリ故ニ單ニ兵士ノミヲ姫路衛戍ヨリ簡

發スル場合ニ於テハ三哩ノ迂回ヲ取ラザルヲ得サルヲ以テ
十五分乃至廿分間ノ遅延トナルベキモ唯タ十五分ニ過キス
廿分ニ過キス之レガ遅速ハ兵備ニ幾何ノ得失ガアル一步ヲ
讓テ十五分ノ差ハ甚タ大切ナリ機一髮猶ホ重大ノ關係ヲ有
ストスルモ北海ニ備フルハ兵士ハ必ズシモ姫路衛戍ヲ限ル
ニアラス又其兵士ノミニテハ不足ヲ感スル事モアチ山陽
鉄道未成線不日ニシテ成ルヲ告グベキニヨリ第五師團ノ兵
士ヲ搭載シテ之レヲ北海ニ送ルノ必要モ生ズベシ果シテ然
ラハ龍野線ハ東ニ偏セス西ニ倚セス所謂中庸ソノ宜シキヲ
得テ能ク鬼敏神速ノ運動ヲナスヲ得ベシ旁以テ室津港コソ
最モ重大ノ關係ヲ陰陽鉄道ニ有スルナレ豈ニ姫路衛戍ノ送

兵ニ便ナルノ一事ヲ以テ軍事上ノ能事終レリトナスコトヲ得ンヤ

吾人ハ是ヨリ工事上ノ關係ニ就テ陳述スル處アルベシ

姫路ヲ起點トスルモノ龍野ヲ起點トスルモノ、二者ニ對スル工事ノ難易工費ノ多寡ヲ比較スルニ當リ龍野線ノタメニ大ニ辨護セザルヲ得ザル者アリ其ノ冤ヲ雪カサルヲ得ザル者アリ他ナシ曾テ鐵道廳技師ノ手ニ成リタル龍野鳥取境間ノ測量結果ノ杜撰ニシテ誤謬ノ甚シキモノアルコト是ナリ其報告ニ曰ク

龍野鳥取境間

本線路ハ山陽鐵道會社線ノ龍野停車場(正條村)ニ起リ北向三

哩ニシテ龍野町(停車場設置見込)西部ノ高處ヲ通過シ栗栖ヲ渡リ西齋崎村(停車場設立見込)ニ至テ姫路線ニ會ス龍野停車場起點ヲ距ル五哩八鎖ニシテ隧道二ヶ所橋梁四ヶ所及ヒ龍野町裏ニ於テ稍大ナル土工ヲ要ス夫ヨリ以往ハ姫路線ト全一ノ線路全一ノ設計ナルニ依リ省ヒテ記セス

茲ニ全線ノ距離及設計ノ要項ヲ舉レハ左ノ如シ

距離 山陽線北龍野停車場ヨリ鳥取ヲ經テ境ニ至ル

百三十哩六十九鎖

土工 百二十八万九百八十五立坪

橋梁 百五十ヶ所 延長一万四千七百九十六呎

トンネル 四十六ヶ所 延長二万八千五百三十八呎余

停車場 二十六ヶ所
最急勾配 三十五分一
最急弧線 十五鎖半

此報告ニヨル時ハ龍野停車場ヨリ皆崎村ニ達スル間ニ二個ノ隧道ト四個ノ橋梁ヲ要スルモノ、如シ吾人ハ實地ヲ踏査視察スルコト幾回ナルヲ知ラサルモ二個ノ隧道ヲ要シ四個ノ橋梁ヲ要スノヶ處アルヲ發見スルコト能ハス吾人ノ調査スル處ニヨレハ唯一ノ隧道ト一ノ切割ヲ要スルノミニシテ橋梁ハ延長六七間ニ過キサル者一延長十間ニ過キサルモノ

一アルノミ就中乙ノ如キハ辛フシテ川ト名クルヲ得ル者ニ過キス之レヲ以テ夢前菅生林田揖保ノ四大川ニ比スレハ殆ント霄壤啻ナラザルノ感ナキ能ハス惜ムラクハ技師ノ測量未タ完結ヲ告クルニ至ラズ彼此對照シテ以テ鐵道廳技師ノ調査ハ如何ニ杜撰如何ニ誤謬多キカヲ証明スル事能ハサルヲ然レ共吾人ハ無責任ノ攻撃ヲ爲ス者ニアラス假令技師ノ測量ニヨリ錙銖ヲ精覈スルコト能ハストスルモ大体ノ調査ヲ誤ル者ニアラス即チ實地無キ處ノ二川ヲ生シ實際要セザル隧道ヲ現出ス技師ノ意思安クニアルカヲ知ルニ苦シマスンハアラス啻ニ鐵道廳技師ノ意思ヲ知ルニ苦シムノミナルズ此ノ如キ杜撰此ノ如キ誤謬カ白晝鐵道廳ヲ通過シ鐵道會

議ニ提出セラレ猶ホ且魔性タルノ正体ヲ示サス彼此二線路
比較ノ材料トナリシハ何故ナルカヲ了解スルニ苦シマンハ
アラス咄々快事之レニ過ク者在ランヤ然リ而シテ工事多寡
ノ比較ハ如何其姫路ヲ起點トスル者ハ東栗栖村迄ノ距離十
二哩餘トス而シテ龍野驛ヨリ東栗栖村迄ノ距離ハ纔カニ六
哩ニ過キズ故ニ姫路ヲ起點トスル者ハ龍野ヲ起點トスル者
ニ比シ實ニ六哩余無用ノ鉄道ヲ敷設セザルベカラザルノミ
ナラス有名ナル四大川ニ各々鉄橋ヲ架設スルノ必要アリ六
哩ノ鉄道敷設費ト二千八呎(四大橋梁ノ延長合計)ノ鉄橋架設費
ハ殆ンド全ク龍野ヲ起點トスル線路ニ要セザル處ナリ
前述セル如ク二條ノ小流アレ共二橋ノ延長合計僅カニ五六

十呎ニ過キズ故ニ吾人ハ龍野ヲ起點トスル時ハ少ナクモ數
十萬圓以上ヲ工費ニ於テ減シ得ベキヲ信セリ政府委員ハ議
會ニ説明ヲ與ヘテ曰ク龍野線ハ姫路線ニ比シ工費ノ少ナキ
ユト十萬圓内外ナリ然レ共龍野ヲ起點トスル時ハ現時ノ停
車場ニテハ不可ナリ之ヲ陰陽鐵道聯絡線ノ起點タルニ適ス
ルノ一大停車場トナスニハ數萬圓ノ工費ヲ要スベシ之レニ
反シテ若シ姫路ヲ起點トスル時ハ唯少シク現在ノ停車場ヲ
修繕スレバ足レルヲ以テ其工費ヲ差引ク時ハ二線其工費ニ
於テ格別ノ差異ナカルベシ況ンヤ十哩ノ間ニ二大停車場ヲ
設置スルガ如キハ鐵道敷設ノ原則ニ戾リタルニ於テチヤト
夫レ然リ豈夫レ然ランヤ政府委員ハ工費ノ差金ハ十萬圓内

外ニ過ギスト云フト雖ドモ彼レ既ニ大体ノ測定ヲ誤リ空中
ニ二個ノ橋梁ヲ描キ又隧道ヲ要セザル工事ヲ枉ケテ隧道工
事トナスガ故ニ線路ノ比較上ヨリ生スル差金ハ單ニ十萬圓
内外ニ止レドモ若シ正當ノ測定ヲ爲ニ於テハ必ラス數萬圓
以上ノ差金ヲ生スヘシ然ラハ則チ龍野驛ヲ改築スルモ尙ホ
數萬圓以上ノ差ヲ生スルヤ疑フ可カラズ而シテ其鉄道敷設
ノ原則ニ戻ルト云フニ至ツテハ吾人ハ疑フ何等ガ爲ニスル
處アリテ附會スルノ説明ニアラサルカヲ蓋シ近距離ノ間ニ
於テ幾多ノ大停車場ヲ設置スルハ其必用ナキガ故ニ之レヲ
制限シタル者タルニ過ギズ故ニ事ノ實際ニ於テ大停車場ノ
設置ヲ必要トセハ二大停車場ハ扱置キ幾多ノ大停車場ヲ設

置スルモ可ナリ之レヲシモ猶ホ不可トスル者アラバ杓子定
規ヲ用ヒントスルノ徒ニシテ齒牙ニ掛ルニ足ラザルナリ
工事ノ關係ニ就テハ龍野線ハ必勝ノ位地ニ立テルモ最第一
ノ利器即チ技師測量ノ結果ハ未タ之レヲ公ニスルノ機會ニ
達セザルヲ以テ暫ク詳論ヲ他日ニ譲リ之レヨリ地方經濟上
ノ關係ニ就キ陳述スル處アラントス
姫路ヲ贊成スルモノ皆曰ク姫路ハ播磨全國ノ中心ニシテ戸
數人口共ニソノ右ニ出ツル者ナシ隨テ旅客ノ往來物貨ノ聚
散等モ亦ク姫路ヲ目的トシ姫路ヲ經由スルモノ多シ故ニ姫
路ヲ起点トスルヲ可トスト吾人ヲ以テ之レヲ見レバ所謂皮
想ノ論タルニ過キス姫路ノ播磨全國ノ中心タルハ事實ナリ

ト雖下モ中心必ラズシモ交通聚散ノ巷ニアラズ知ラズヤ播
磨十六郡中其印南以東ハ姫路ニ由ルノ必要ナク却テ攝ノ大
坂神戸ニヨルヲ便トスルヲ又知ラズヤ揖東揖西赤穂宍粟佐
用五郡ハ龍野ヲ控ヘテ姫路ヲ恃マザルヲ然ラバ則チ姫路ヲ
中心トシ百事姫路ニヨルモノハ唯々飾東飾西神東神西ノ四
郡アルノミ之ヲ播磨全國四分ノ一ノ中心ト云フヲ得ベキ
モ播磨全國ノ中心ナリト云フニ至テハ抑モ事實ヲ誣フルノ
甚シキモノト謂フベシ我ガ龍野町ハ戸數人口共ニ姫路ニ比
スベキニアラズ然レドモ一々貨物聚散ノ点ニ付テ觀察セ
バ戸數人口共ニ幾階級ノ下ニアル處ノ龍野ハ遙カニ姫路ヲ
凌駕スルノ事實ヲ發見セン試ミニ問ハン姫路ニ著明ノ特有

物産アルカ一年ノ輸出金額ニシテ三万圓以上ニ達スルモノ
カ鹽ハ赤穂醬油ハ龍野素麵及柔革ハ揖東揖西二郡ノ産出ニ
係ル(柔革ハ姫路地方ヨリ産出スルモノアルモ揖東揖西二郡ノ産出額ニ
若カズ)而シテ今先ツ醬油素麵ニ就テ之ヲ云ヘバ我ガ龍野
町醬油醸造組合員ハ總テ五拾三名ニシテ一年ノ醸造高ハ概
チ三万二千石之ヲ代價ニ算スレバ廿五万圓乃至三拾万圓
トス而シテツノ原料トシテ備前備中兵庫大坂若シハ九州朝
鮮ヨリ供給ヲ仰シ大豆小麥二万石ヲ下ラヌ赤穂郡ヨリ購入
スル鹽モ亦十一万石内外ナリトス左レハ醬油醸造ノ爲メ
ニ要スル原料ト依テ以テ製造シタル醬油ノ運搬ノミニテモ
一年四千余輛ノ貨車(一車五噸積)ヲ要スベシ

蓋シ少

額トハ云フベカラズ素麵ハ從來海運ニヨルモノ十ノ七八ニ
居ルガ如キモ之レガ原料タル小麥ノ如キハ兵庫大坂諸國ヨ
リ輸送スルモノアリ鉄道便一タビ開ケバ其販路ノ伸張ト同
時ニ之レガ運搬上ニ一變遷ナカルベカラス即チ今日海路ヨ
リ北海ニ輸送スルモノ、如キモ忽チニシテ汽車貨物トナ
リ北ノ方鳥取ニ出テ、需用地ニ轉送セラル、事トナルベシ
而シテ赤穂鹽ハ最モ醬油釀造用ニ適スルヲ以テ近キ我が龍
野ハ勿論遠キ千葉縣下野田銚子ノ如キモ皆チ供給チ赤穂ニ
仰ガザルナシ其此ノ如クナルニモ拘ハラズ赤穂鹽ノ販路チ
山陰地方ニ開クチ得ザルハ如何山陰地方ノ醬油釀造家ノ野
田銚子龍野ニ倣フテ赤穂鹽チ用ヒザルハ如何唯チ運搬ノ便

ナキノミニヨラズンバアラズ醬油モ亦タ然リ從來ノ慣例ニ
ヨレバ一旦之レチ坂神各地ニ致シ問屋チ經テ四方需求地ニ
散スルモ其山陰ニ向ツテ輸送セラル、モノハ極メテ少數チ
リトス今一樽(三斗三升八)ノ醬油チ鳥取ニ輸送センニハ實ニ
壹圓貳拾錢ノ運賃チ要ス然ラバ海路ヨリセンカ先ツ之レチ
神戸港ニ致シ汽船便チ待チ中國海ヨリ西海チ經北向シテ目
的ノ地ニ達スルノ順路チ取ラザルベカラス此間幾多ノ日子
チ費シ運賃トシテ猶ホ八拾錢内外チ要ス而シテソノ此ノ如
ク多クノ運賃チ要スル處ノ醬油元價ハ幾何ナルカト問ヘバ
最上ニテ一樽三圓ノ上ニ出テス三圓ノ元價ニ對シテ八拾錢
ノ運賃チ要ス之レチ數千里外ニ輸出スルモノトスレバ格別

僅々三十哩内外ニ過キサル龍野鳥取間ニ於テ然リトス豈ニ
一大驚ヲ喫セザルヲ得ンヤ況ンヤ壹圓貳拾錢ニ於テチヤ素
麵ノ如キモ殆ンド此レト同一ノ事情アリ故ニ產地近接ノ岩
見港及網干港ヨリ和船ノ便ニヨリテ北海及大坂兵庫ニ輸送
ス以上ハ醬油素麵ノ販路運賃等ノ關係ヲ述ベシニ過キザル
ヲ以テ今更ラニ醬油素麵產地ノ經濟ヲ畧言スベシ抑モ我が
龍野町ニ於テ醬油釀造組合員五十三名ノ一年間ニ釀造スル
石數ヲ前記三万二千石トシテ計算スレバ

記

一醬油三万貳千石

代金二拾五万八拾圓

此 譯

原料品價拾貳万八千圓

税金三万貳千圓

營業者純益三万貳千圓

備役者其他分與金五万八千八百八拾圓

ハ如高

即チ差引三万圓余カ釀造業者五十三名ニ對スルノ利益ナリ
然リ釀造業者ハ此ノ如ク利益ノ少ナキ代リニ或ハ原料買入
或ハ備役賃等凡ソ釀造家ノ所在地ニ散スル金額ハ多シソノ
一証ニハ運搬上ノ便利我が掛東掛西二郡ニ讓ラザル地ノ農
家ニ比シ常ニ小麥壹石ニ付平均三十錢位ノ高直ニ賣却シ居

レリ是レ他ナシソノ所在地ニ於テ需用スルモノアルヲ以テ
他ヨリ輸入シテ無用ノ運賃若干ヲ要スルガ上俗ニ所謂裨減
リヲ見ルヨリハ利益ナリトシテ高直ト知リツト之レヲ購入
スルニヨルナリ聞クソノ筋ノ調査ニヨレバ我が揖東揖西二
郡ニ於ケル議員撰舉有權者即チ地租五圓以上ヲ納ムルモノ
ハ全國中比較的ニ多數ナリト是レ自カラ種々ノ原因アルニ
ヨルベシトイヘドモ醬油素麵ノ製造ノ爲メ或ハ原料ヲ供給
シ或ハ雇賃等ヲ得ルユシ一大原因ナルベケレ夫レ然リ此ノ
如ク地方經濟ニ大關係ヲ有スル特有物産ノ一二ニ止マラザ
ルニ拘ラス之レニ運搬上ノ便利ヲ與ヘザルハ國家ノ利益ヲ
増進スル所以ニアラザルナリ論者或ハ曰ハン龍野線ト姫路

線トハ起點ト起點トノ距離十哩龍野町ト東齋崎村(停車場設
置見込ノ内)トノ距離一哩ニ過キズ然ラバ則チ物貨運搬上ノ
便否ハ極メテ瑣々タルベシ詳シク云ハ、龍野ヨリ姫路若ク
ハ東齋崎村ニ運搬スルノ勞力ト費用トノミヲ利スルカ損ス
ルカノ問題ナリ豈ニ龍野線ヲ採用セズンハ醬油素麵等ノ物
産ハ忽チ販路ニ大影響ヲ受ケ所在ノ農家ハ忽チ生計上ニ大
影響ヲ受クルガ如ク極論スルヲ得ンヤト然リ便否ノ岐ル、
處ハ僅々數哩ノ距離ノ差ノミ然レドモ交通運搬ノ未ダ開ケ
ザル時ニ在テハ運賃些細ノ差ノ如キハ左マテ影響スル處ナ
カルベキモ便利一タビ開ケシ曉ニ至レハ錢厘ノ微モ之ヲ低
減スルヲ要ス否ラズンハ販路ハ忽チ他ノ運搬ノ便利ヲ有

スル地方商家ノ手ニ歸スベシ殊ニ姫路ヲ起點トシテ或ハ鳥
取地方ヨリ坂神ニ出テ若シクハ坂神地方ヨリ鳥取地方ニ向
ツテ來往スルモシ、便ノミヲ謀ルハ龍野ヲ起點トシテ西ヨ
リ北ニ赴クモシ、北ヨリ西東ニ赴クモシ、東ヨリ北ニ赴クモシ
、便ヲ謀ルノ公平ナルニ若カザルベシ論者所謂僅々距離ノ
差ハ吾人寧ロ此場合ニ適用スルノ恰好セルヲ覺フルナリ抑
モ龍野驛ニヨリテ聚散スル貨物ハ獨リ揖東揖西佐用共粟赤
穂ノ五郡ノミナラス因州作州地方ノ如キハ姫路ヲ便トセス
シテ龍野ヲ便トス而シテ龍野驛ヲ起點トスルノ利益ハ此レ
ノミナラス彼ノ郵便事務ノ如キハ之レガ爲メニ非常ノ便利
ヲ得ベシソノ山陰地方ト岡山以西九州トノ間ニ贈答スル信

書ノ如キハ姫路ヲ經スシテ遞送セラル、ガ故ニ少クモ一時
間以上ノ速達ヲ見ソレ唯一時間ノ速達ニ過キズ然レドモ
郵便差立ハ自カラ定時刻ノアルヲ以テ一日一回ノ差立
ヲナスニ過ギザル地方ニ至レハ龍野線ニ於ケル一時間ノ速
達ハヨク一日ノ速達トナルヲ得ベシ之レヲ要スルニ龍野ヲ
起點トスルノ利ハ何ノ点ヨリ觀察スルモ姫路ヲ起點トスル
ニ優ルコト萬々ナリトス
以上陳述スル處ノ要旨摘録スレハ山陰山陽鐵道聯絡豫定線
路トシテ撰定セラレタルハ東方中央西方ノ三線ナリト雖ド
モ中央西方ノ三線ハ東方線ト雌雄ヲ争フノ價值ナシ是レ世
間公衆ノ共認ムル處ナルガ如シ故ニ陰陽鐵道ハ東方線ヲ可

トス否ナ東方線ハ陰陽鐵道線トシテ場ヲ擅マ、ニスルモノ
、無人ノ境ヲ行クモノト云フベシ然レドモ東方線中ニ於テ
自カラ二個ノ問題アリ我ハ龍野ヲ起點トスルノ說姫路ヲ起
點トスルノ說是レナリ然レドモ國家的ノ觀念ヲ以テソノ利
害便否ヲ研究調査スル時ハ甲ヲ以テ勝利者トナサザルヲ得
ズ姫路線ヲ主張スルモノ、說ニヨレハ龍野ヲ起點トスル時
ハ姫路鳥取ノ間ニ於テ用モナキ土地ニ向ヒ三哩ノ迂回ヲナ
サザルベカラズ(第一)陰陽鐵道ノ起點ニハ起點ニ適當ナル
ダケノ停車場ヲ建築セザルヘカラズ之レニ要スル費用ヲ乘
除スレハ假令ヒ姫路ヲ起點トシテ六哩内外ノ無用(龍野ヲ起
點トスル論者ノ言ニヨル)工事ヲナスヲ要スルモ兩者間工事ノ

差金ハ少額ナルヘシ(第二)姫路ハ播磨全國ノ中心ニシテ一
大都會ナリ故ニ此地ヲ措ヒテ他ニ適當ナル起點地ナシ(第
三)姫路ニハ第八旅團アリ一朝北海ニ事アルノ日ハ直チニ
兵士ヲ簡發セザルヲ得ズ故ニ此場合ニ於ケル便利ヲ謀ラザ
ルヘカラズ(第四)ト然レドモ吾人ハ更ラニ之レヨリ重且大
ナルノ理由ニヨリテ龍野ヲ起點トスルノ必要ヲ說クモノニ
テ治水上ノ關係(第一)軍事上ノ關係(第二)工事上ノ關係
(第三)地方經濟上ノ關係(第四)是レナリ抑モ治水上ニ於ケ
ル鐵道ノ關係ハ實ニ尠少ナリトセス或ハ鐵道ニヨリテ長堤
ヲ築キ或ハ鐵橋ニヨリテ堅障ヲ設ケハ假令ヒ學理上可及的
ノ方法ヲ用ヒテ障害ヲ避クルモ堤防ノ缺潰ニヨリ田畑人家

ヲ湖中ニ沈ムルハ到底免ルベキニアラス山陽鐵道敷設ノ
メニストラ既ニ非常ノ損害ヲ蒙レルニ拘ハラズ更ラニ陰陽鐵
道ヲ敷設シテ山陽鐵道線ト併行セシメ非常ノ危害ニ重ヌル
ニ非常ノ危害ヲ以テセントス慘酷モ亦甚クシガラズヤ勿
論鐵道ハ國家經濟上國家軍事上等ニ大關係ヲ有スルモノナ
ルニヨリ此ノ必要ナルモノヲ敷設スルガ爲メニハ幾何カノ
不便ヲ忍フハ國民ノ義務ナルモ敷設セシテ可ナルノ鐵道
ヲ敷設シテ眼前ニ慘狀ヲ誘起セントスルハ不可ナリ軍事上
ニ於テハ中國海唯一ノ良港タル室津ノアルアリ龍野ヲ起點
トシテ鐵道ヲ敷設シ置カハ他日容易ニ室津港トノ聯結ヲチ
スヲ得ベシ然ル曉ニハ一朝北海ニ變アルモ忽チニシテ大砲

水電艇ヲ輸送スルヲ得ベシ而シテ姫路ガ主張スル處ノ姫路
衛戍ヨリ兵士ヲ簡發スルコトモ亦々難カラズ迂回三哩ノ結
果ハ十五分乃至廿分ノ遲延トナルモ火急ノ變ニ應シ難キニ
アラス加之後カ所謂三哩ノ迂回ハ東方ヨリユツ迂回ナレ
テ西方ニ轉シテ見ル時ハ姫路ヲ經テ北向スルニ比シ却ツテ
十三哩ノ捷路トナル即チ乘除シテ十哩捷路ヲ得ルノミ茲ニ
知ル姫路線第一第四ノ理由ハ厘毫ノ價直ダニナキチ又々工
事ノ關係ニ就テ云フ時ハ姫路線ニハ夢前菅生林田揖保ノ四
大川ニ合計二千八哩ノ鐵橋ヲ架設セザルヘカラザルモ龍野
線ニハ二ヶ所合計百余哩ノ橋梁ヲ要スルノミ假令ヒ隧道工
事等ノ費用ヲ除クモ六哩余ノ鐵道ト千九百余哩ノ鐵橋トチ

架設スル費用ハ殆シト空ヲ龍野線ニ要セザル處ナリ左シハ
龍野停車場ヲ改築シ數万圓ノ費用ヲ擲ツモ尙ホ巨万ノ工費
ヲ省減シ被レノ大工事ニ比スレハ一停車場ノ改築何カアラ
シ茲ニ知ル姫路第二ノ理由モ亦タ取ルニ足ラザルコトナ地方
經濟ヨリ云フモ亦タ然リ姫路ニハ一ノ著明ナル特有物産ナ
シ我ガ龍野地方ハ之レニ反シ醬油素麵等ノ如キ特有物産ア
リ隨テ此ノ事業ノ爲メニ生活スルモ幾何ナルヲ知ラズ龍野
線ヲ採用スルハ取モ直サズ此等ノ事業ヲ保護シ發達セシム
ル所以ナリトス况ンヤ姫路ハ播磨全國ノ中心タルニ相違ナ
キモ商業上ノ中心ニアラザルニ於テチヤ茲ニ知ル彼レガ所
謂第三ノ理由モ亦タ龍野線ニ抵抗スルノ力ナキコトナ而シ

テ郵便事務ナリ物貨運搬ナリ旅客來往ナリ龍野ヲ便トスル
モノ多クシテ姫路ヲ便トスルモノ少ナキハ事實ノ屢々之レ
ヲ証スル所ナリトス故ニ吾人ハ國家的ノ觀念ニヨリテ之レ
ヲ主張スルモノニシテ區々ノ地方精神ニ支配セラレ不便ヲ
誣ヒテ便トナシ害ヲ枉ケテ利トスルモノニハアラザルナリ

6/36

明治二十六年七月七日印刷
明治二十六年七月十二日出版

編輯兼發行人

兵庫縣揖西郡龍野町
二百四十一番邸

橫 山 省 三

印刷人

同縣同郡同町千二十三番邸

渡 邊 芳 之 輔



龍野活版所通文舎印刷

75
84

